

## 学力学習状況検証委員会・報告

平成 22 年 3 月 12 日

報 告 者

静岡市 P T A 連絡協議会

顧問 柴田 自由

こんにちは。

ただいまご紹介をいただきました、静岡市 P T A 連絡協議会・顧問の柴田自由と申します。

昨年、一昨年は現役の市 P 連会長として、教育委員会関係の多くの審議会・委員会に出席させていただき、多くのことを勉強させていただきました。ありがとうございました。

本日は「学力向上専門家委員会」のこの 3 年間のまとめ的なお話を私がさせていただくことになりました。このような貴重なお時間を頂き感謝いたしているとともに、大変緊張しておりますが、ぜひよろしくお願い申し上げます。

さて、この「学力向上専門家委員会」は、もともとは 3 年前から行われている「全国学力状況調査テスト」に対する、結果を検証し、改善することを目的として立ち上げられました。

既に、ご承知いただいている通り、鳴り物入りで復活した「全国学力状況調査テスト」ですが相変わらず喧喧諤諤、あちらこちらでその是非について論争がなされています。

そして、昨年夏、政権が変わり 3 年間行ったこの調査テストも事業仕分けの対象に上がりました。結果、予算縮小となり、全国的には、来年度は抽出方式となるようです。

ただ、静岡市では、教育長さん始め、教育委員会の皆様のおかげで、来年度も全公立小中学校を対象としてテストを行っていただけると伺っております。ありがとうございます。

先般、教育長さんともお話をする機会がありましたが、教育長さんも「この調査テストは全部でやって初めて成果が上がる」とお話になられておられました。

これは、3 年間携わった私自身もそう実感しております。

なぜか？ と申しますと、抽出方式では、このテストの本当の意味・意義が半減すると思うからです。例えば、抽出方式で行って、それを「静岡市では、こういった傾向があります」とだけ報告するのなら、それは新聞か何かを読んで「あ～なるほど、そういった傾向か・・・」と、その程度の物に終わってしまいます。

自分たちが取り組んだからこそ、その結果に興味湧き、更にその分析にも目がいくと言うものです。ですから、ぜひ、今後も可能な限り全体で取り組んでいてもらいたいと思います。よろしく御願います。

では、本題に入る前に少しだけ私自身のお話をさせて下さい。

というのも、何の資格も無い、一保護者がこのような場でお話しても何の説得力も無いと思います。

そこで、少しでも、私の話にお耳を傾けていただければ幸いですと考えるため私自身のお話をしておきます。

実は、私も先生方と同じように普段は多くの子供たちを指導している立場にあります。

私は駿河区・中田本町で「[極真](#)」という空手の道場を開いており、それを本業としております。

下は5歳の年中さんから、上は50代の社会人の方までを指導させていただいております。

大体100数十名くらいの在籍者がいて、ほとんどは小学生で約7割を占めています。

当然ですが全てのクラスを指導担当しており、道場生の名前は全て漢字でフルネーム書けるくらいに一人一人のお子さんについて把握していると自負しております。

また、PTAの役員として勉強させていただいた経験も指導の役に立っております。

ビデオ流す

小学生で空手を始める子が多く、一生懸命続けてくれるのですが、中学生になるとほとんどが「部活」を理由に止めていくのが目下の悩みです。

武道は長く続けてこそ分かってくることがたくさんあるので、長く続けて欲しいと思っているのですが最近ではなかなか長続きする子がいないのは残念に感じています。

[長続きするとか粘り強いとかの話は後のほうにも関連してきますが・・・。](#)

それでも、中には一生懸命続けてくれている子もいて、長いお子さんだと10年間道場に通ってくれています。6歳から16歳くらいです。

数は多くはないですが、これだけ長く他人の子どもの成長を見させていただいているのは先生方でも少ないのではないのでしょうか。先生方で長くて4年間くらいではないのでしょうか・・・

これだけ長く見ていると成長の変化も掴めますし、指導させてもらって良かったな、と実感します。親御さんとの繋がりも深いものになっております。

また、子どもたちとは別に、社会人の方の中には某大学の教授さんや、某市内大手銀行の支店長さんクラスの方も親子で稽古に来て頂いております。

お仕事が忙しいので出席率がいいとは言えませんが、それでも、コツコツ稽古に来て自己研鑽に励んでいただいております。

このあたりが、私の唯一の自慢ですので、そのあたりも充分ご理解頂きこの後の話をお聞きください。  
(ここで、チョット笑ってもらえれば幸いです・・・)

さて、ご承知の通り、我々が3年間行ってきた「学力検証改善委員会」というのは、先ほどお話した通り、平成19年度に43年ぶりに復活して行われた「全国学力状況調査テスト」に関して、そのテスト結果を検証し、今後の子どもたちの指導に、如何に役立たせるか？ という事を考える会でした。

そこで、今日は

- 1、我々委員がどのように取り組んできたのか？
- 2、また、その検証結果を、現場の教職員の方々にどのように利用していただきたいのか？
- 3、保護者は何を考えているのか？ 現実はどうなのか？

といったような流れでお話をさせていただきます。

そして、先ほどお話したとおり、保護者という立場であるとともに、子どもたちを指導する立場としての目で見たと話もさせていただければ幸いです。

よろしく願いいたします。

思い返せば、平成19年の6月6日に第1回の会合がありました。

場所は清水庁舎だったと思います。

当時、寺尾光正先生（指導主事）がイニシアチブを取り、会が進められていきました。

その際、寺尾先生が大体の流れや構想を、一生懸命お話してくれるのですが中身が全く見えず、「やはり先生方はこんな難しい話を簡単に理解できるのだ。それに引き換え自分はなんと理解力が無いのか？ この会は、自分には荷が重過ぎる」と悩んだことを思い出します。

しかし、会の最後にある先生が「ちょっと中身が見えないのですが・・・」とご質問され、私自身の気持ちを代弁してくれたかのような気持ちになりました。

また、他の先生方も「最初は意味が理解できなかった、戸惑った」というようなお話を、お伺い、少しほっとしました。

さて、寺尾先生が一応のルールを引いてくれたので、なんとなくですが進むべき方向が見えたような気がしました。そして、この学力調査テストには、いわゆる学力を図る問題だけではなく、児童生徒の普段の生活習慣や態度を調べる「生徒質問紙」というものがあり、これらの結果と学力の点数をリンクさせる作業が重要な要素を持っていました。

ある意味、これがあってこそこの「学力調査テスト」ではないか、とも考えるようになりました。

そして、その結果、「学力アップ」ということを考えると、単に子どもたちへの勉強の指導というだけでなく、普段の生活習慣や生活態度、親御さんとの関わり、地域との連携までを含んだ大きな物として考えなければならぬということになってきました。

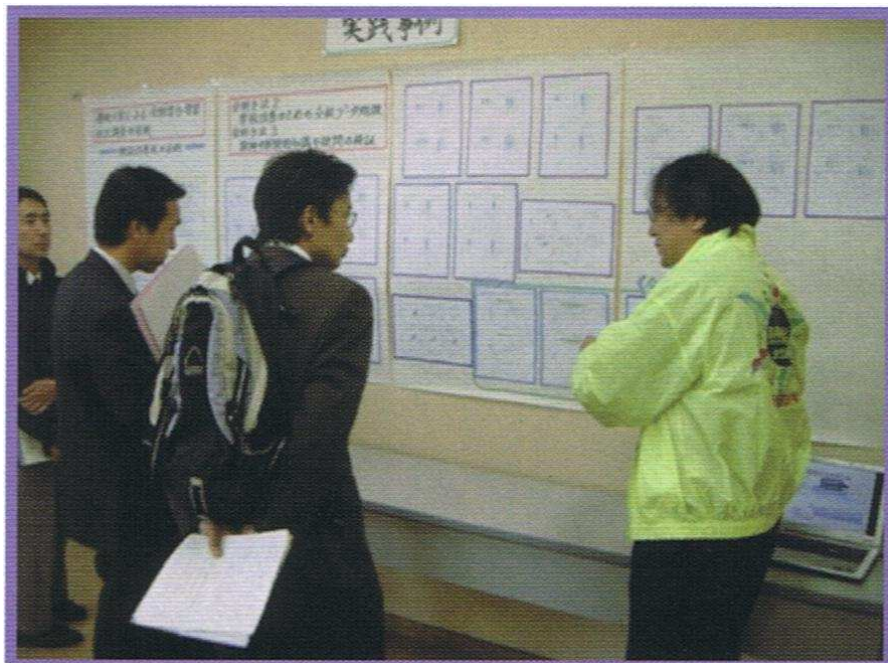
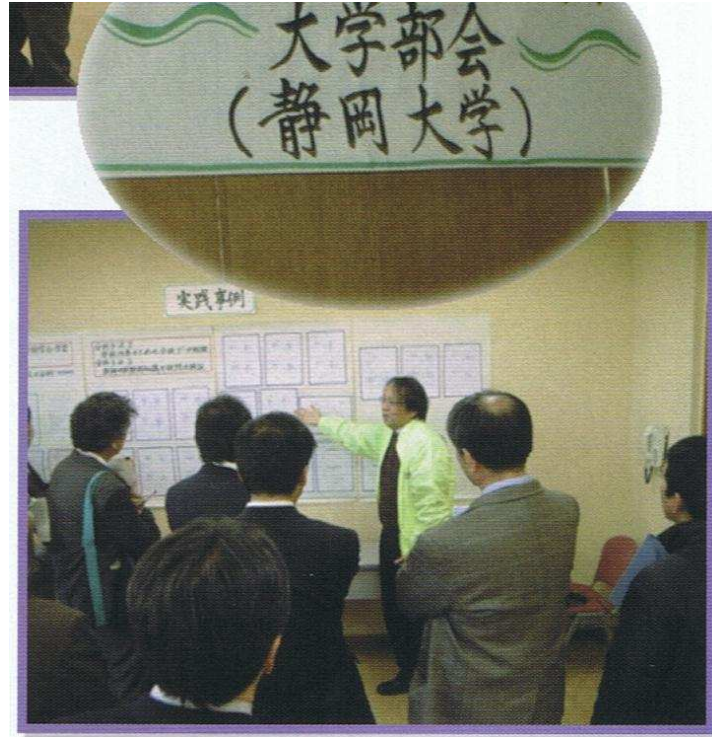
しかし、これは当然といえば当然の結果でしょう。

普段から現場で子どもたちを見られている先生方なら、「当たり前な事だ、こんな調査しなければ分からないことではない！」とお怒りになられるかもしれませんが、まぁ、そんなことも分ったということです

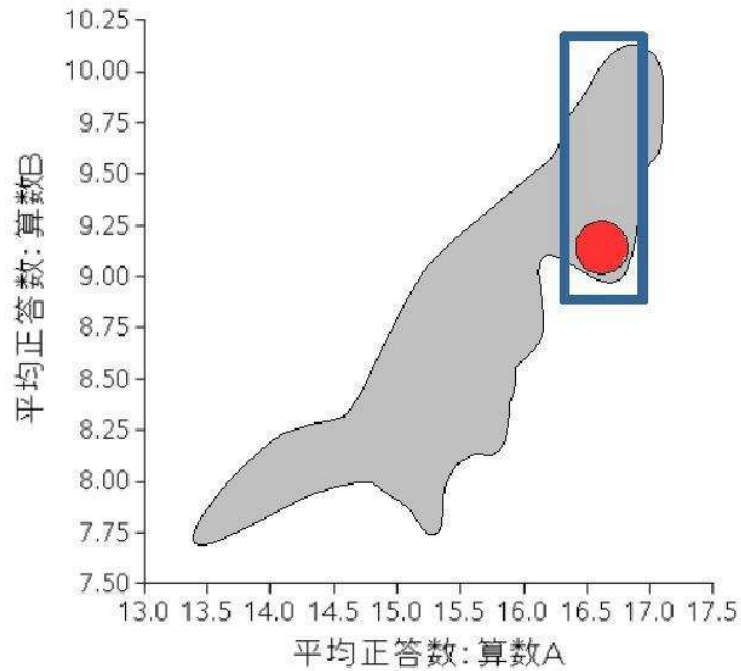
我々の委員会は、まず、4つの部会に別れ、それぞれの部会がどこに対して、誰に対して、何を行うか、とすることになりました。

## 1、「静岡大学部会」

「静岡大学部会」では村山功先生を中心として、主にテスト結果のデータの分析手法について考察頂き、テスト結果を入力すれば、そのクラスや学年が全体の中で、こういった分布になっていて、どの部分が弱いのが一目で分かるソフトを開発していただきました。



### 知識と活用のバランス: 算数



この図は本来は右上がりの方が妥当なのですが、赤いしるしのようにチョット落ち込んでいるところがあります。これは、横軸の算数Aはいい結果が出ているが、縦軸の算数Bは少し弱いということが分かります。こういった細かな分析が可能となっています。これは、CDでの配布が可能となっていますので、ぜひご活用下さい。

## 2、「常葉大学部会」

「常葉大学部会」では中村孝一先生を中心として、教科教育学的アプローチとして具体的な授業の進め方をモデルとして示していただき、実際に現場の小学校や中学校へ入っていただき実践授業を行っていただきました。これがその時の様子です。この様子は「検証委員会・冊子1」に掲載されています。

### 小学校国語 中村孝一委員の提案授業

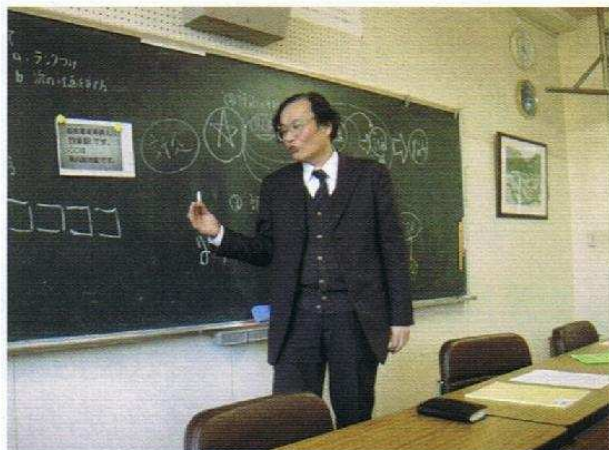


### 小学校国語 中村孝一委員の提案授業

#### ○ 論理的思考力を育てよう

- ・ 論理の仕組みを知る。
- ・ 論理的な思考の型を知る。
- ・ 型を使って表現してみる。
- ・ 教室の言語を論理的にする。
- ・ 必ず根拠を挙げて考えを述べる。

## 算数・数学 黒澤俊二委員の講話



## 算数・数学 黒澤俊二委員の講話

### ○「しずおかするがプラン」の提案

- ・し：式の「よみ」「かき」能力向上
- ・ず：図表現力の向上
- ・お：およその見積もり能力向上
- ・か：「関数の考え」の向上
- ・す：「数学的な考え方」を育てる指導法
- ・る：「ルール」づくりを取り入れた指導法
- ・が：「学習観」を育てる指導法

## 中学校国語 坂口京子委員の提案授業



## 中学校国語 坂口京子委員の提案授業

### ○ 正しく読み、論理的に表現する力を育てよう

- ・表現に即して何がどう書いてあるかを読む
- ・多様なテキスト（新聞やグラフ・・・、自分たちの作品や教室言語）を教材とし、解釈や総括、評価をする。その内容を話したり書いたりする。
- ・全体（内容、表現形式、スタイル）を細部と関係づけて読む。

### 3、「児童生徒部会」

「生徒児童部会」では児童生徒本人達にテスト結果を踏まえて

- ・なぜこういう結果になったのか？
- ・反省すべき点は何なのか？
- ・どうすれば今後自分達の成績は伸びていくのか？

を話し合ってもらいました。



#### 4、「地域保護者部会」

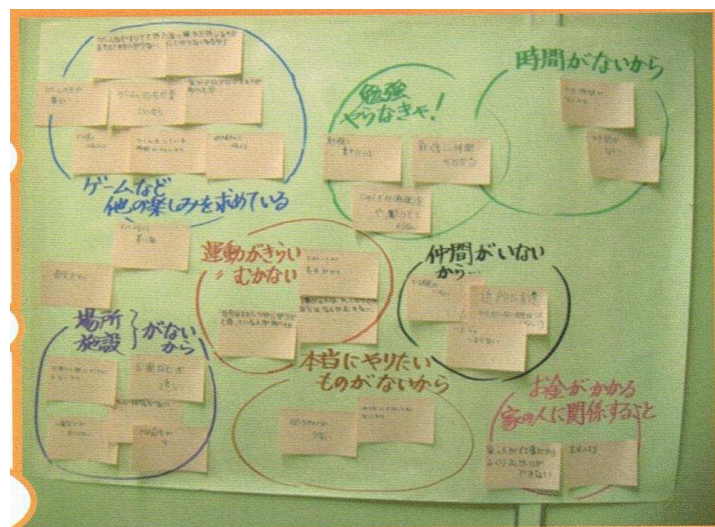
「地域保護者部会」でも同様に

- ・なぜこういう結果になったのか？
- ・反省すべき点は何なのか？
- ・どうすればお子さんの成を伸ばせられるのか？

を話し合ってもらいました。



「児童生徒部会」でも、「地域保護者部会」でも、「ブレインストーミング」という方法を取りました。テーマに沿って、付箋に思いつくままを書き留めて行き、後でそれをまとめる方法です。

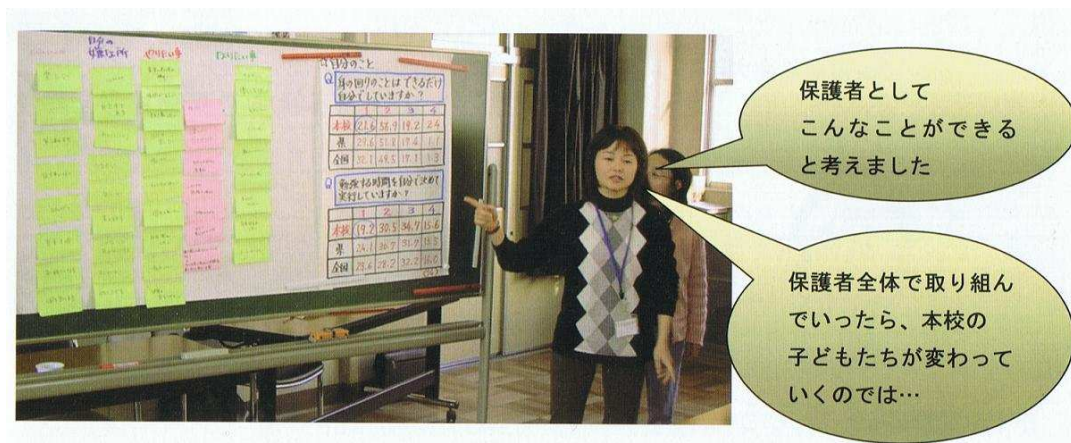


私は「地域保護者部会」の一員として、「西豊田小学校」にお伺いし、保護者の皆さんとお話をさせていただきました。



特に、今回、「西豊田小学校」が文部科学省指定のモデル校とされていたので、私も3回伺い、保護者の方々の生の声を聞かせていただきました。

保護者の皆さんは思いつくまま本当に多くの意見を出してくれ、それらは、全てが、前向きないい意見ばかりでしたので、その成果はあったと思います



今お話しした通り、我々、検証改善委員会では、これらの4つの部会が各地区の学校に出向き、こういった内容を実際に行うという「支援」をさせていただいて来ました。

3年間行いましたので、充分、有効にご利用いただいた学校もあると思います。

しかし、残念ながら、検証改善委員会がてんでこ舞いになるほどではありませんでした。

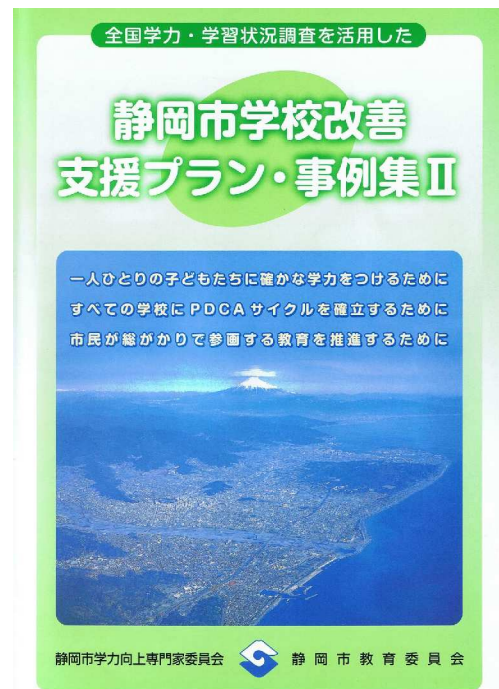
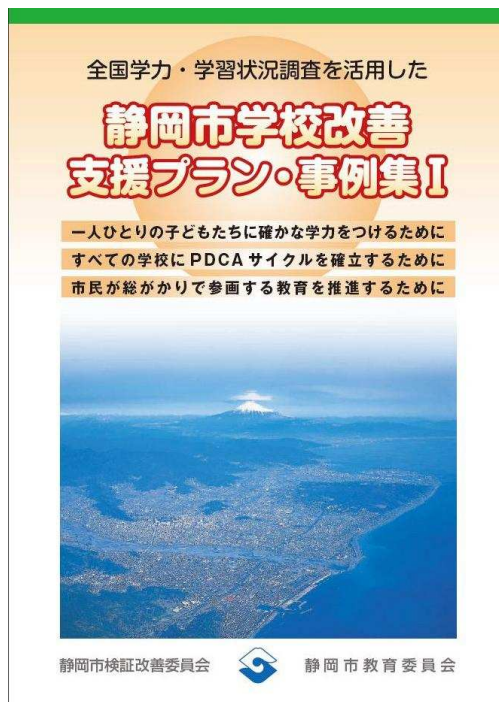
だいたい、20数校くらいから支援の申し出があったのですが、現在静岡市内の小中学校は130校近くあるわけですから、本来はもっと多くの学校から申し出があって、我々の委員会が身動きが取れないくらいのほうが、この事業に興味を持っていただいているのだと実感できるわけです。

そういった意味では、ちょっと物足りなかった感は否めません。

この辺りは各学校が今以上に積極的に関わっていただければ保護者としては安心に思えます。

次年度以降も積極的に支援が出来る体制が整うと思いますので、ぜひ宜しくご活用下さい。

そして、初年度は 128 ページにわたる冊子も作成され充実した物になりました。



この、冊子の存在をご存知の先生はチョットお手を上げていただけますか？

特に、初年度に作成された「Ishu」は中身が充実していますので、お時間のあるときにじっくり読み進めていただければ、指導の際に役立つのではないかと思います。

ぜひ、ご覧下さい。

それから、また、今年データの分析からちょっとおもしろい・興味深いことが分りましたので一応お伝えしておきます。

中学生の生徒質問紙からです。「静岡市」全体で見た時です。

「設問」

(5) 最後までやり遂げてうれしかった事がありますか？ 92.8

(6) 難しい事でも、失敗をおそれないで挑戦していますか？ 62.7

\*\*最後までやり遂げてうれしかったことがある反面、難しい事に挑戦しているかといえは 62.7%と少ないので、出来そうなことにしか取り組んでいないのではないかと、挑戦心は薄いのではないかと、思われます。

(26) 家で、自分で計画を立てて勉強していますか？ している 33 していない 67

(27) 宿題をしていますか？ 88.6

(28) 予習はしていますか？ 26.9

(29) 復習はしていますか？ 31.3

\*\*中学生くらいだと、当たり前かもしれませんが、宿題はしているが予習や復習はやっている子は少ないという訳です。ということは、先生方はその辺りも考慮して、宿題を出すようにしていただければ適当な負荷

がかかって、彼らはもっと伸びるのではないでしょうか

全部の先生がそうすれば多すぎることになるかもしれませんが、例えば、「1 時間目 2 時間目の授業を受け持たれた先生はチョット大目に宿題を出す」なんていうことを学年で相談して決めていただければいいんじゃないかな、と思ったりしました。

難しいとは思いますが・・・

( 3 6 ) 地域のお祭りなど行事へは参加していますか？ 市 39.8 県 53.8 全国 37.8

県の数字は 53.8、全国は 37.8

では「市」はどうでしょうか??? 市は 39.8 です。

\*\* どちらかとうと「静岡」のイメージは地域へのお祭りなどへは積極的に参加しているように感じます。しかし、それは県全体ではそうですが「市」単独では全国平均とあまり変わりが無い結果が出ているということです。

県のイメージが市のイメージになっているところがあります。

( 7 3 ) 言葉や式を使って、最後まで解答しましたか？ 努力した 50.2 努力しない 49.8

( 7 4 ) テスト時間は充分でしたか？

国語 A 94.3

国語 B 91.3

数学 A 92.3

数学 B 87.2

\*\* テスト時間は充分だったのに、最後まで粘って解答したかという、そうでもない結果が出ています。この辺りは、一番、最初にお話した「空手道場の子どもたちが長く続けてくれない」とか、さっきお話した、難しい事に取り組むような「挑戦心の不足」とか、そういったものに結び付くのではないかと思います。

ですから、勉強そのものの指導も大切ですが、その大元になる、物の見方や考え方、壁にぶつかったときにどう対処すればいいのか、といった性格的な部分にまで踏み込んで指導をする必要があるのではないかと考えました。

例えば、子どもたちを指導する先生自身が消極的であったりすると、子どもたちはそういった発想を持ってしまいます。もちろん、親御さんの性格も反映されるわけですから、親御さんとの関わり方も重要なポイントになってくると思います。

こうなると、もう絶対に学校だけではムリなんです。

やはり、家庭や地域の力が必要で、特に小さいときから周りとのかかわりを如何にして覚え、身に付けていくかが大切になってきます。

そして、こういった細かな結果や分析というのは、実は、冊子には掲載されませんので、結果のデータをじっくり読み進めないと分りにくいと思います。

先生方は、お忙しいので、1 人では無理ですが、複数人で結果データを読み込むような機会を持っていただければ、我々検証委員会を読みきれなかった傾向やそれぞれの学校のウイークポイントなんかが見えてくるのではないかと考えています。

宜しくをお願いします。



改めてですが、私が3年間この委員会に所属して感じた事は、この「学力調査テスト」の復活に伴い危惧されていた「学力競争激化」という問題ですが、確かに、一部報道では、通常の授業を中止し、テスト対策を行った先生がいた、とか、テストの成績の低い子（特に発達障害がある子）は学校を休まされる、あるいは別室での授業となるのではないか、という指摘がありました。静岡市内では今のところそういった報告は無く、安堵しています。

とりもなおさず、自分自身がこの「検証改善委員会」に参加させて頂いて、感じたことは本当に多くの先生方が一生懸命子供たちのために動いていただいているのだと実感しました。こんなに素晴らしい先生方は他にはいないと感じています。本当に素晴らしいです。

チョット誉めすぎでしょうか??? (笑)

いろいろ危惧されていた問題は、結局、それを伝える立場の教育委員会の皆さんや現場にいらっしゃる先生方の伝え方や心の持ち様だと思えます。

先生方がこの結果を大切に生かし、いい意味での競争原理を働かせながら、より良い成長をもたらすように、保護者との関わりや生活面などを含めた、多岐に渡っての指導していただければ最高の効果をもたらすことになるでしょう。

ぜひ宜しくお願いいたします。

さて、駆け足ですが、この3年間を振り返らせていただきました。

ここまでが、いわゆる「検証改善委員会」としての振り返りの部分です。

ここからは、少し経路を変えて、この事業に関わってからの、私の周りでのお話をさせていただきます。

### 「保護者の現状」

まず、最初にお話した通り、私は空手の道場で「先生」をしています。

空手道場ですから、いろんなイベントがあります。

この学力テストが行われた最初の年度のお正月、新年会を行いました。

親御さんが100名くらいいらっしゃったと思います。

年頭のあいさつを兼ねて、この学力テストについて集まっていた保護者の方に質問してみました。

「学力調査テストっていうのが今年度の4月に行われたのですがご存知の方？手を上げて下さい」と。

何人くらいの方が手を上げてくれたと思いますか？

結果は約1～2割でした。

あれだけ、新聞のトップ記事にもなったし、ニュースでも流れていたのに、たったの2割でした。8割は知らなかったのです。

知っていた約2割の保護者はその対象の学年だったということです。

たった、それだけのことでした。正直ショックでした。

でも、それが世の中の、保護者の現状です。

確かに「初年度だったから」というのもあるでしょう。

でも、あれだけ、騒がれたのですからもうチョットは知っていると思ったのですが・・・。

ひょっとしたら、PTAの現役の役員さんだって、自分のお子さんが対象学年でなければ、そんな事に興味の無い方もいらっしゃるかもしれません。

私は、たまたま、空手の先生で、普段から子供たちを見ていて、市のPTA会長という立場だったからだから、余計にそういった事が気になったのかもしれませんが。

### 「簡単なことが出来ない」

また、こんなこともありました。

現役会長のときに校長先生や教頭先生、教職員組合の先生方とお話する機会があって、その中である教頭先生が

「最近のお子さんの中には簡単な10問テストのようなものでも満点が取れない子どもたちが増えてきて、どう指導していいのか困っている」とお話になったことがありました。

要するに**簡単な事が根本的に出来ない子どもたちが増えている**と実感されたのだと思います。

実は、道場でも似たような事が起こっていました。

小学校の3～4年生でも、ちょうちょう結びが出来ない子、ほうきをうまく使えない子、なんかは結構たくさんいます。

それから、道場では、準備体操の号令や基本的な空手の技の名前やなどを、年齢に応じた量で覚えるように

指導しています。

物を覚える作業は勉強の基本ですから、道場での経験が他の場所で生きてくれればいいとの考えからそうしています。

現役会長になった時でしたので、3年位前の夏休み明けですが、今まで覚えた動作の名前を忘れている子が続出したのです。

夏休みといっても学校のように1ヶ月もあるわけではないです。ほんの1週間です。

また、道場では学校のように新しい単元にどんどん進んでいくようなことはありません。

準備体操はほぼ毎回行いますし、基本動作は何度も繰り返して身体に染み込ませる必要があるので、何回も何回も同じ事を繰り返します。それでもたった1週間で忘れている子たちがたくさんいたのです。

「困った」と感じたので、保護者へお手紙を書き、集まっていたいただき実情をお話しました。それから数年立ちますが、今では少しずつ改善されて来ています。

### 「秘策」

これには、実はチョットした秘策があったのです。

「何か」というと、あるお父さんが極真空手の経験者で、幼稚園でいじめられっ子になりそうだったお子さんを何とか強くしたくて、道場に入門してくれて、私の話にも共感してくれて、お子さんを徹底的に指導されたようです。

噂に聞くと、出来なければ、泣くまで繰り返し稽古して、出来るようにされそうです。

基本的な私の指導は「厳しく！」です。

「やさしく褒めて」の指導はありません。

「褒めると伸びる」なんていいますが、私の道場では、極真空手では、少なくとも私の知る限りでは「褒めて伸びる」ことはありません。空手に関してはですが・・・

褒めると調子に乗る子はいます。「俺は強くなった！」なんてすぐに勘違いしてしまいます。

でも、厳しさに耐えられない子は、後で弱さを露呈させます。

空手道場ですから当然ですが、厳しく指導して我慢強く取り組み、残った者は間違いなく鍛えられています。

脳科学の権威「川島隆太」先生の講演会でも、同様のお話をされていました。

「『物を覚えさせる』、『ルールを守らせる』ということが前提なら厳しく接することが必要です」とお話になられていました。すいません、横道にそれてしまいました。

結果、彼は、私の道場では初めての「2級飛び越し」をやったのけたのです。

普通は頑張っても「1級飛び越し」しか無理なのですが・・・

で、それに刺激を受けた他の子たちが、一生懸命覚える作業に力を入れ始めたのです。

確かにこれはチョット厳しすぎる部分もあり、親子の絆がしっかりしていなければならぬ特異な例だとは思いますが、それでも、この話には、三つの重要なポイントがあると思います。

- 一つ目は、困った事象に気付いて行動を起こせたこと。
- 二つ目は、先生の話を理解して、保護者が真剣に動いてくれたこと。
- 三つ目は、出来そうも無かったことが、出きる子が出現したこと。

気付いていても行動に移せないことってよくありますよね・・・、忙しいから・・・とか、上手く出来そうに無いから・・・とか、でも、言い訳すればキリがありません。

そこを何とか乗り越えて前に進む事です。これは、先生も保護者も同じです。

そして、何といっても、出来る子の出現によって、周りが刺激を受け、その結果、全体のレベルアップが図れたということです。

### 「案外知らない」

さて、今、「覚えることが大切」というお話をしましたが、それに関してのお話をします。

道場に通っている4年生の子です。

稽古中に、大きな声が出ていなかったのので、元気良く声を出してもらおうとして、ちょっと離れたところから「あなたの住所を教えてください!」と呼びかけました。

大きな声で返事が返ってくることを期待したのですが、返答がありません。

元気が無くて返答できなかったのではなくて、「住所」の意味が分からなかったようなのです。

で、返ってきた答えは「住所って電話番号みたいなの???」・・・

番地のことを電話番号と混同しているようでした。

「住所」という言葉の意味をいちいち学校では教えていないと思います。

これは、例えば、1年生になったとき、持ち物に名前を書いたり、住所を書いたりする中で親が「ここに、住所を書いておくよ・・・」と話しかけたりして、覚えたりすることではないかと思います。

家庭での会話や地域の人との接触が昔よりも少ないことが、子供たちの語彙不足につながっているともいえるのではないのでしょうか。

また、語彙不足に関してはコンビニが増え、駄菓子屋さんが減り、「ゲーム遊び」=「一人遊び」に夢中で、他人との会話が減っている事も原因の一つではないのでしょうか?

特に今は、親世代がテレビゲームの経験者ですから、あまりにも簡単にそこへ入ってってしまうのでしょうか。

他にも、「こめかみ」「みぞおち」「土踏まず」「かかと」「互い違い」などの言葉を知らない子は結構いて驚かされました。

先ほどの発表の中にも「語彙不足感じる」と報告がありましたが、私も全くその通りだと感じています。

そして、各学年別に手を上げてもらったら、道場の中ですら各学年に2~3人位いました。

学校全体で調べてみれば、かなりの数にのぼるのではないのでしょうか?

### 「教えなければ・・・」

「覚えることが大切」と言いましたが、当然、子どもたちが何かを覚えるためには、大人が「教える」必要性も出てきます。

ある学校での出来事です。

2年生の子どもたちがチョットしたことでケンカを始めました。

あ～でもない、こ～でもない、と揉めていました。

授業開始のベルが鳴りました。

そこへ通りかかった先生（お名前は言えませんが立派な先生です）

「おい、何やってる、授業が始まるから早く教室に入りなさい・・・」と指導されました。

当然彼等はしぶしぶ教室に入っていました。

が、本当にこれでよかったのでしょうか？

もちろん、授業時間のこともあるし、教室に戻すしか手立てはないことは重々承知しています。でも、本当は原因を聞き、両者の言い分を聞き、彼ら自身がどう解決すればいいのかを、彼ら自身に考えさせ、問題解決の方法を教えるいい機会だったのではないかと思います。

それを、「時間が無い」の一言で大人の判断で解決してしまえば、彼等は自分達で解決する方法を身に付けられないまま成長し、気付けば「気に入らなければ、ぶん殴る」的発想しか思いつかない大人に成長するかもしれません。

ある講演会で聞いた話ですが、「『問題解決能力』のある企業が素晴らしい会社だ」という話を聞きました。クレームに対してどれだけ上手に対処するかはその企業の本当の力かもしれません。

問題解決能力がなく、腕力に頼るしかないということはまさに原始社会としか言いようが無いでしょう。

そういったことを考えると、時間効率だけを考えて、子どもたちを指導すると後になって問題が起きてくるのではないのでしょうか？

昔は授業中横道にそれる先生はたくさんいました。

ちょっとだけ、授業時間を割いて、学力以外の問題解決の方法だけでも教えてあげられればいいんじゃないかと思えます。

そして、案外、そんな先生が人気があって、そんな先生になりたいくて、教職を目指した子どもたちも多かったのではないのでしょうか？

しかし、現実的には、今は時間に追われ、・・・大変な時代です。

### 「教えなければ・・・」

私は道場で指導する際にこんな話をします。

特に上級者になってきた者に対してです。

上級者になれば後輩を指導する機会が訪れます。

そこで彼らに、「私の行っている指導の一字一句を全て覚えて下さい」、「言葉の使い方は個人個人で違う場合があるでしょう、でも、しかし、敢えて一字一句全てを覚えて下さい」と。

「一字一句全てを覚えた後、自分の色を付けてもいいです」と。

なぜか???

道場生に指導を任せると、私が話してもいない言葉や言い方で間違っただ順番や間違っただ説明をしている場合があります。そうすると、間違っただものが伝えられます。

私からの「10」が、もし「8」しか覚えてもらえず、そのまま、その人が次に指導して、またその人の「8」しか伝わらなかつたら、私からの「10」はもう半分くらいに減ってしまうと思います。

これでは、「伝承」にはなりません。

だからこそ全部を覚えて欲しいのです。

「チョットくらい違ってもイじゃん」という考え方はありません。

昔は紙や鉛筆、当然ビデオなどは無く、でも、そんな時代から長く伝えられてきたものがたくさんあります。能や狂言、歌舞伎や雅楽、ほかにもたくさんあるでしょう。

楽譜が無いのに、正しく音楽が伝えられてる事も世界中の国であることでしょう。

そうやって全部を覚えて、伝えられてきた物が「伝統」「伝承」になるのです。

これは、伝統文化や武道の話で、親から伝えることや、学校での勉強などを教えることとは違うかもしれませんが。でも、親や先生、大人が持っているものを出来るだけたくさん教えてあげることが、子どもたちが成長し、将来役に立つことになると思います。

大阪に「岸本裕史」という先生がいらっしゃいました。残念ながらもうお亡くなりになりましたが・・・あの、百ます計算の生みの親です。

「見える学力・見えない学力」という本を書かれています。



この本には、分り易く、子供たちの能力を引き上げる方策がたくさん書かれています・・・

学力や人間の能力を氷山に喩え、「水面上に出ている氷山より、水面下の氷山の方がはるかに大きい、しかし、これがその子の、その人の本当の能力であり、後になって生きてくる」といわれています。



表面 = テストの点数だけを見るのではなく、その子の本質 = 経験、性格、考える力、生きる力、問題解決力、センス（運動や音楽など）を見てあげましょう。

今、私たちは、教育に関して、暗中模索していると思います。

いろんな考え方や、いろんな指導方法が溢れ返り、保護者も先生方も何を信じていいのかわからなくなっているのでしょう。そして、結局は目先の学力アップだけに目を奪われている状況です。

しかし、これでは根本的な解決は成されません。

経済的には厳しい世情ではありますが、学校・地域・家庭が三位一体となって、今まで以上に、本気で連携する必要があります。

「ナンバーワンよりオンリーワン」などという歌が流行りました。

意味は分かります。それはそれで大切な事です。

しかし、それが行き過ぎれば、「ただのワガママ」になってしまいます。

考え方はたくさんあっていいと思います。

しかし、子育てに関しては、ある程度、同じ方向を見て進む必要があると思います。

間違った親がいれば指導をして頂かなければなりません。

先生方はしっかりした指針を持っていただき、子どもたちにも、そして保護者にも正々堂々と対応していただきと思っております。

そんな思いも含め、私の報告を終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。